

特別支援学校における地域への相談支援の在り方 IX

—相談部事業報告—

田口悦津子 安永啓司 仲野真史

I はじめに

本校は、今年度創立60周年を迎えたが、前回の節目50周年以降この10年は正に特別支援学校としての在り方が問われる時代でもあった。2003年度に創設された相談部は、今年度で12年目となった。スタッフは、専任1名と幼稚部との兼任1名、小学部との兼任1名の計3名の体制である。専任者の異動があったが、昨年度とスタッフの体制は同じであり、増え続ける相談の依頼にどのように対応していくのか、H市内の状況や社会情勢、昨年度実施したニーズ調査の結果を踏まえて、大学の附属としての特別支援学校の相談部の在り方を模索している。今年度は電話、メール、面接相談合わせて200件を越える相談を受け付けた。この数は件数的には現在の体制では上限と思われる。昨年度の反省を踏まえ、電話相談を受けやすい状況を整えたため、電話相談の件数は増えたが、巡回相談の回数が減ることとなった。以下、IIでは今年度の相談部の各事業について報告し、IIIでは幼児就学支援事業について述べる。

II 各事業についての報告

電話相談、メールによる相談、面接相談、巡回相談、研修会等への講師派遣を相談部の事業として実施した。また、地域への貢献事業として、本校所在地H市の就学支援委員会委員、保育課障害児審査会委員を以前より市から委嘱され受けている。また、校務分掌として幼児就学支援事業を実施し、相談部・幼稚部・小学部担当で「さらさらグループ」を行っている。以下、各事業についての概略を報告する。

1. 電話相談・メール相談

電話相談は113件を受けた。昨年より件数が増えた。昨年は、相談の電話があったもののスタッフが巡回相談で不在のため、直接依頼者から話を聞くことができなかったケースが多数あった。その反省に基づき、週のうち巡回相談に出かけない日を設け、電話の対応をした。

2. 面接相談

面談による相談をのべ39回(36組)回実施した。回数としては昨年度と比べると大幅に減少した。これは発達検査の依頼を受ける条件を変更したためである。相談対象の内訳は幼児が18回、小学生15回、中学生5回、高校生以上が1回であった。幼児のケースは年長児の就学に関する相談が多く、後述する就学支援グループに繋がるケースが多い。学齢以降では学業不振、学習が困難という相談が多い。発達検査の実施を控えたため、昨年と比べると学齢以降の件数が減っている。

3. 巡回相談

1) 就学前の巡回相談

2006年度にH市保育課から巡回相談の依頼があり、これ以降毎年継続して行っている。市立保育園9園を各園3回以上実施した。午前中に対象幼児の様子や保育の観察をし、午後の午睡中に園内で話し合いの時間を設け、対象幼児の課題や目標、支援方法の確認等を行った。年長児の場合は、後述する就学支援事業「さらさらグループ」に繋がることもある。

また、市内の私立幼稚園2園から依頼があり、合計10回巡回相談を実施している。そのうちの1園へは定期的に訪問し、計7回巡回相談を実施した。対象幼児の様子を観察し、課題や目標、支援方法の確認を園側と話し合ったり、就学に向けての課題について保護者面接を実施したりした。

2) 学齢期以降の巡回相談

市内小・中学校等の依頼により、市立小学校9校のべ53回、市立中学校2校17回、私立小学校10回、中・高一貫校2校のべ13回、大学1校4回計97回実施した。H市の場合、市教委による市内全学校を計画的にめぐる巡回相談等は実施されていないため、各学校からの依頼に応じるかたちで訪問し相談を受けている。各校の特別支援教育の体制は様々であるが、今年度は年度当初に計画を立て、校内委員会の実施日と巡回相談日を重ねた上で出席を依頼してくる学校が増え、3校あった。巡回相談の内容としては、児童生徒の行動観察からの見立て、支援の具体的な方法について等を各担任、特別支援教育コーディネーターに助言した。また、校内の支援会議、ケース会議、保護者の希望がある場合は各学校の要請のもと保護者面談などへの参加も行った。また、今年度は通常の学級への巡回相談に関しては本地域のセンター校である都立清瀬特別支援学校との連携が難しかったため、市のスクールソーシャルワーカーと連携し、校内の支援会議やケース会議でケースを共有して活動をした。また、対象児童・生徒の担任とともに通級学級の担任ともケース会議を持つなど、昨年以上に他機関との連携が進んだ。支援会議の中で、各機関の役割を確認し、それぞれの役割を実行するなど、連携・協働するケースが昨年度よりさらに増加している。

3) 研修会講師

研修会の講師として相談部員を14回派遣した。市の教育委員会からは特別支援教育コーディネーター研修会と初任者研修会の依頼があった。今年度、市内の2つの小学校が特別支援教育をテーマとして校内研究を進めており、そのうちの1つの小学校へは授業研究会の助言者として5回出席をした。また夏休みに本校の教材紹介を中心とした研修会を行った。他の1校は、夏休みに教員研修として校長はじめほとんど全教員が本校を訪れ、施設や教材等に触れる機会をもった。特別支援学級のない普通小の先生方がほぼ全員本校を訪問するということは今までなかったことである。また、市内に2つある情緒・通級学級の合同保護者会への講師依頼があった。その他、私立学校、保育園からも依頼があった。

4. 市との連携

1) H市就学支援委員会委員として委嘱を受け、ケースを担当した。在籍園、学校での行動観察・集団での観察や判定会等の会議に合計28回出席した。

2) 保育課障害児審査会委員として保育課から委嘱を受け、4回ほど出席した。主に対象児に保育士を加配するかどうかの審議や、その後の対象児の経過などの審議に参加している。

Ⅲ 幼児就学支援事業

相談部の関連事業として実施している幼児就学支援事業「さらさらグループ」は2004年に始まり、今年で11年目を迎えた。今年度の参加者も含めると卒会生は11期72名を数える。その中には、グループ終了後も連絡を取り合い、ピアグループとして活動している保護者の方々がいる。今年度はその方々が著名な作業療法士の方を招いて勉強会を企画するなど、活発に活動している。また、前述した通級学級の合同保護者会に講師として伺ったところ、多くの本グループ卒会者の保護者にお会いすることができた。本グループに参加したことで、支援を受けるきっかけをもらったと語って下さる保護者が多かった。本事業が地域の特別な支援が必要な子どもへの支援の一助を担っていること実感した。今年度の幼児就学支援事業の実施事項を以下に報告する。

《参考資料 平成26年度さらさらグループ実施事項》

参加者7名 A児：H市在住（6月～） 公立保育園在園（巡回相談から申し込み）

B児：H市在住（6月～） 公立保育園在園（巡回相談から申し込み）

C児：H市在住（6月～） 公立保育園在園（巡回相談から申し込み）

D児：H市在住（6月～） 公立保育園在園（巡回相談から申し込み）

E児：H市在住（6月～） 私立幼稚園在園（巡回相談から申し込み）

F児：H市在住（6月～） 公立保育園在園（巡回相談から申し込み）

G児：H市在住（6月～） 公立保育園在園（巡回相談から申し込み）

スタッフ：幼稚部（安永・亀田・長峯・小樽）小学部（井上・仲野）相談部（田口）

学生ボランティア3名登録 参観：市SSW・相談室心理職・民間支援機関支援者・保護者 計17名

・6月18日（水） 第1回 7名参加 ・学生ボランティア3名

○グループ活動 ・さらさらノートづくり（日付を書く シールを貼る） ・自由遊び

・おはなしタイム「自己紹介」「うたのリクエスト」（じゃんけん）

・ゲーム（ポーリング・黒ひげ・お菓子取り）・おやつ ・自由遊び ・帰りの会

○懇談会：オリエンテーション

さらさらグループについて グループの目的 今年度取り組んでみたいことの説明 自己紹介

・7月9日（水） 第2回 7名参加・学生ボランティア1名

○グループ活動 ・ノートづくり（日付を書く・台紙を切る・のりで貼る・シールを貼る）・自由遊び

・おはなしタイム「夏に楽しみなこと」「うたのリクエスト」（じゃんけん）

・ゲーム（ポーリング・黒ひげ・お菓子取り）・おやつ ・自由遊び ・帰りの会

○懇談会：就学・就学相談について

・就学にあたって 特殊教育から特別支援教育へ 就学相談とは 就学までのプロセス

・8月27日（水） 第3回 6名参加+OB6名参加 学生ボランティア2名

○グループ活動 ・ノートづくり・自由遊び

おはなしタイム：「自己紹介と夏休み楽しかったこと」 OB「自己紹介と小学校で楽しいこと」

・ゲーム（ポーリング・もっこりレー・お菓子取り）・おやつ ・自由遊び

○懇談会：OBの保護者の話を聞こう「小学校へ入学して」OB母たち語る

- ・ 10月8日(水) 第4回 7名参加 学生ボランティア3名
市相談室心理職7名・民間支援機関支援者2名参観
○グループ活動 ・ノートづくり・書字課題・自由遊び
・おはなしタイム:「うんどうかいのこと」 うたのリクエスト(多数決)
・ゲーム(伝言ゲーム・もっこりレー・お菓子取り) ・おやつ ・自由遊び
○懇談会: 我が子を見つめよう・運動会について・就学時健診について
- ・ 11月19日(水) 第5回 7名参加 学生ボランティア2名
市SSW 相談室心理職5名・次年度参加希望保護者1名参観
○グループ活動 ・ノートづくり・書字課題 自由遊び
・おはなしタイム:「すきな食べ物について」 うたのリクエスト(多数決)
・ゲーム(だるまさんがころんだ・もっこりレー・お菓子取り) ・おやつ・自由遊び・帰りの会
○懇談会: 就学時健診を終えて 各自の報告・感想
- ・ 12月17日(水) 第6回 6名参加 学生ボランティア2名
○グループ活動 ・ノートづくり・書字課題・自由遊び
・おはなしタイム:「クリスマス・お正月に楽しみなこと」 うたのリクエスト(多数決)
・ずこらタイム(クリスマスのかざりづくり)
・ゲーム(ドーンじゃんけん・お菓子取り)・おやつ・自由遊び ・帰りの会 プレゼント交換
○懇談会: 現況報告 就学支援シートについて
- ・ 2月4日(水) 第7回 7名参加 学生ボランティア2名
○グループ活動 ・ノートづくり・書字課題 自由遊び
・おはなしタイム:「すきなものたち・せんせいについて」・うたのリクエスト(多数決)
・お菓子取り ・おやつ ・自由遊び ・帰りの会
○プレ学校体験 ・学校探検 ・ここはどこ?
○懇談会: 就学支援シートについて(渡し方) 発達検査について
- ・ 3月11日(水) 第8回 7名参加 学生ボランティア1名 次年度参加希望保護者2名参観
○グループ活動 ・ノートづくり・書字課題・自由遊び
・おはなしタイム:「小学校で楽しみにしていること」
・お菓子とり ・掃除 ・自由遊び ・修了式
○プレ学校体験: 教室移動・音楽の授業体験
○懇談会: まとめ 就学支援シートを渡して、さらさらグループに参加して思うこと

< 26年度の特記事項 >

- * 出席率: 54/56 96%で非常に高く、欠席が少なかった。
- * 7名全員が市内在住、就学相談を経て、市内の小学校へ就学した。
- * 保護者の中に外国出身の方がお二人おり、NPOの虹のひろばや児童民生委員の方との協働など、新たな連携が生まれた。
- * 昨年度全9回のプログラムを今年度は全8回で実施した。今後も参加幼児の実態とスタッフ側の指導体制を考えながらプログラム内容を検討していく必要がある。